

「特別の教科 道徳」学習指導略案

第4学年1組34名

指導者 池田 陸哉

1. 主題名 「せいっぱい生きる」 D-18 生命の尊さ
2. 資料名 「わたしのいのち」(出典:Gakken「みんなの道徳④」)
3. ねらい

生命の尊さを知り、一生懸命に生きようとする心情を育てる。

4. 展開

時間	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ◆評価の視点
導入 5分	1 今までの生活から命について考える。 ○「命って、____(だ)なあ。」の____に、どのような言葉が入るでしょう。 ・一つしかない ・大切 ・切ない ・たくさんある	◇命に対するイメージを生活経験から膨らませることで、ねらいとする道徳的価値へと方向付ける。
展開 35分	2 「わたしのいのち」を読んで感じたことを話し合い、道徳的価値の大切さを考える。 ○自分の胸に手を当てて考えてみましょう。同じように胸に手を当てたゆうちゃんは、どのようなことを感じていたのでしょうか。 ・自分も生きていてよかった。 ・いつかは心臓が止まって死んでしまうのかな。 ・不思議でよく分からない。 ☆おじいちゃんの話聞いて、ゆうちゃんはどのようなことを考えたのでしょうか。 ・いつかは自分の命にも終わりがくるんだ。 ・おじいさんの残された時間は短いな。 ・命は多くの人に支えられている。 ・人の命はバトンでつながっている。 ○おじいさんの「おかげ様でと感謝して、せいっぱい大切にしよう」という言葉から、自分の命はどのような人やものに支えられていると思いますか。 ・お母さん、お父さん ・おじいさん、おばあさん ※先祖 ・助産師 ・お医者さん ・先生 ・農家さん(食べ物関連)	◇自分の心音を聞くことで、安心して話し合いに臨めるようにする。 ◇児童の発言から、生命の神秘性や有限性に触れることで、多様な考えが引き出せるようにする。 ◇P90の挿絵を大きく掲示し、自分や周りの命について視覚的に捉えさせることで、道(人生)には終わりが来ることに気付かせる。 ◇生命についてマイナスイメージが強く出ている場合は、おじいさんの話に立ち返ることで、失うことの怖さよりも今を懸命に生きることの大切さに気付けるようにする。 ◇教材文のキーワードから生命の支えやつながりについて連想することで、自分の生活に自然と投影できるようにする。
	3 自分の生活を振り返る ○今「せいっぱい生きる」こととは、どんな生き方をすることだと思いますか。今日の学習から感じたことを書きましょう。 ・自分の命をもっと大切にすること。 ・周りの命も大切にすること。 ・一日一日を大切にすること。	◆多くの命に支えられながら生きていることに気づき、精一杯生きることについて考えを深めようとしている。 (発言・ワークシート・観察)
終末 5分	4 教師の話を聞く。 ○たくさん命について勉強してきたので、命について考えさせられる歌を紹介します。歌詞の意味も考えながら聞いてみましょう。	◇「いのちの歌」(竹内まりあ)を流し、歌詞に込められた生命についてのメッセージを聞かせることで、余韻をもって終わる。